

成果指標				
成果指標	1件当たりの医療費助成額＝年間扶助費÷医療費助成対象件数			
指標設定の考え方	1件当たりの医療助成額を指標とし、子育て世帯の経済的負担の軽減の成果を測る。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標27年度
目 標	2049	2032	0	0
実 績	2098	2015	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	平成26年度から、入院費助成対象を中学生まで拡大することとなった。給付されるべき医療費が給付されないことがないように、対象となる児童の保護者に対し、届出を行なっていただけるよう制度の周知を徹底していかなければならない。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	医療費の負担を軽減することは、子どもたちの健やかな育成環境づくりに必要であるので、制度が安定的に運営されよう、積極的に制度の周知を図る必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	評価委員会抽出事業

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	・大変良い事業だと思う。・平成26年度から、入院助成対象が中学生まで拡大することは望ましいことだと思う。・県内では既に14市町が中学校まで拡大している。伊予市も是非定着させていただきたい。初年度には周知徹底を。
-------------------	---

経営者会議の最終判断

事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	